

西東三鬼のふるさと俳句投句函

令和元年十二月 入選句

特選

投了の黙の一礼秋深し
霜払い丘の校舎の門開く

津山市 妹尾 武志
津山市 中村 けんた

一般の部

鶴山の高き城垣鱗雲
復元の弥生住居や木の実降る
本丸や腰巻櫓夕もみじ
白サギが小川の中で思案顔
ふりかえる少女の胸に赤い羽根
早朝の霧の中より転車台
秋霖や終列車着く津山駅
耳つけて冷たき石の聲を聞く
城下には白壁民家冬日晴
冬田みち風のとどまるところなく
時雨るるや嫗みたりのカフェテラス
こだまするスリバチ谷の出初め式
しめ縄を結んで祭り深くなる
初笑い若者の明日が聞こえる

岡山市 矢野 エミ子
津山市 岡田 邦男
津山市 高木 明子
津山市 原 寿美江
津山市 三谷 元
鏡野町 高原 喜久子
鏡野町 藤田 明子
岡山市 久常 大軒
東京都 小城 敏子
倉敷市 綱島 美真理
鏡野町 中谷 淳子
津山市 中村 森の子
津山市 中島 正和
津山市 東城 達彦

ジュニアの部

名月や松の間に顔を出す
水草をゆらしておよぐ錦鯉
かどまつがわらいの口になつている
すんだ空もみじいろずくしゅうらくえん

岡山市 丹治 智(十二才)
鏡野町 三木 新(十四才)
広島市 古城 結葉(八才)
岡山市 たんじ あい(九才)

(今回投句数 二百九十五句)

